

平成30年度 蓬左文庫講座

絵はがきに見る名古屋城

名古屋城は、江戸時代は藩主の居城として、明治維新後は陸軍用地や離宮として、その偉容を誇りながらも、昭和20年(1945)の戦災で焼失しました。しかしながら、天守閣は焼け跡の中から市民の浄財によって、昭和34年(1959)再建されました。平成20年度に着手した本丸御殿復元工事はいよいよ完成をむかえ、本年6月8日から全面公開が始まります。

明治維新以降、150年にわたる歴史の中で、名古屋城はどのような経過をたどってきたのか、豊富な戦前の絵はがきを中心に、その姿を紹介します。

平成30年 6月14日(木)

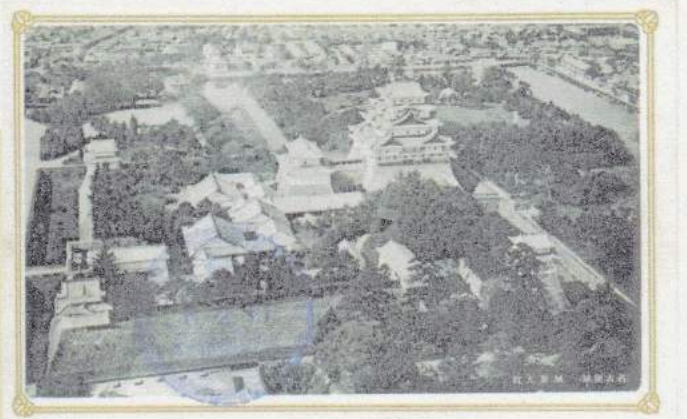
講師：井上 善博(蓬左文庫調査研究員)

時間：午後1時30分～3時(午後1時入場開始)

参加費：無料(徳川園入園料 一般300円 が必要です)

定員：当日先着100名

会場：徳川園ガーデンホール(東区徳川町1001)



昭和6年(1931)2月11日、一般公開初日のスタンプが押された絵はがき。この日から多くの人々が名古屋城へ訪れ、各種の絵はがきが売り出された。

展覧会のお知らせ

タイムスリップ1918 大正の名古屋
—米騒動絵巻に見る100年前のモダン都市—

同時開催 ユネスコ世界記憶遺産登録記念
朝鮮通信使と名古屋

会期 6月1日(金)～7月16日(月・祝)
観覧料 一般1,200円(徳川美術館と共通)



【米騒動絵巻】

【お問い合わせ先】

名古屋市蓬左文庫

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1001

電話番号：052-935-2173(月曜休館)